ほぼ週刊コラム　Partnership論　その２１７

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』**

**第三十回勉強会（通年内容は**[**年表rev.9**](http://llc.a.la9.jp/Papers/evolution%20history/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev9.ppt)**参照方）の準備**

**universal rightsの起源**

20161208 rev.1 齋藤旬

 [**Inventing the People**](https://www.amazon.com/Inventing-People-Popular-Sovereignty-England/dp/0393306232/ref%3Dsr_1_1?ie=UTF8&qid=1477553338&sr=8-1&keywords=Inventing+the+People)**の**[**半訳作業ファイルwork**](http://llc.a.la9.jp/Papers/Inventing%20the%20people/Inventing%20the%20people%20HanYaku%20work7.docx)**7を作成した。**

1．The Divine Right of Kings　神授王権 13-17

今週はこれらを和訳した。

　**punch lineを挙げる。それは13 pageの：**

the Commons（庶民議会）が主張するuniversal rights（訳注：divine right of kingsと異なり神授を根拠とする必要がない普遍的権利）は或る意味彼らが論拠とした命題に左右される。即ち自分達はrepresentativesであるというfictionと、王は神の副官であるというfictionとによって、彼らがrightsのみならず何か論説を陳べたいならば必ずin universals（訳注：神を根拠とするのではなく普遍的）に陳べなければならなくなった。

**今話題の**[**『サピエンス全史』**](https://www.amazon.co.jp/%E3%82%B5%E3%83%94%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%82%B9%E5%85%A8%E5%8F%B2-%E4%B8%8A%E4%B8%8B%E5%90%88%E6%9C%AC%E7%89%88-%E6%96%87%E6%98%8E%E3%81%AE%E6%A7%8B%E9%80%A0%E3%81%A8%E4%BA%BA%E9%A1%9E%E3%81%AE%E5%B9%B8%E7%A6%8F-%E3%83%A6%E3%83%B4%E3%82%A1%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%8E%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%83%8F%E3%83%A9%E3%83%AA-ebook/dp/B01KLAFEZ4/ref%3Dpd_sim_351_1?_encoding=UTF8&psc=1&refRID=STNV3FKNSAFMG4VDPDXV)**ユヴァル・ノア・ハラリ著、を思い出した**。キャッチ・コピーは「差別も人権も平等も全て虚構である。人類は虚構を信じることで世界を支配した！」。あるいは[来日した著者のインタビューがここ](https://www.buzzfeed.com/sakimizoroki/sapiens-interview?utm_term=.rkvBz4j4b#.scnNY8V8W)に載っている。曰く「貨幣や宗教は虚構」。

Dworkinは「religionはa prior commitment（前提与件、主要仮定）だ」といった。

モーガン、ハラリ、ドゥォーキンの三者に共通しているのは、self-evident truths（自明の真理）の存在を出来るだけ避ける慎重さ。実に興味深い。

**私は常々思うのだが、当世の英語のbelieve inを「信ずる」と和訳するのは妥当だろうか**。「～～の仮定を強く支持する」というような和訳の方が、当世の英米人が**believe in**の表現で感じているnuanceに近いような気がする。

今週は以上。来週も請うご期待。